

汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなってやってきた

観光&物産イメージキャラクター決定!!



平成19年度南三陸商工会全国展開プロジェクト事業の一環として、応募を行った結果、この度「南三陸町観光&物産イメージキャラクター・ウチバシカジカ」のキャラクターと愛称が決定しました。
たくさんのご応募ありがとうございました！
キャラクターデザイン：佐藤 和幸 さん（㊟助作）
愛称：小松 秀男 さん（気仙沼市）

ウチバシカジカストーリー

イノシシそっくりの顔で、ちょこちょこ可愛らしく動き回る、泳ぎが苦手な魚です。
これまでに生息が確認されているのは、アメリカ・カナダの太平洋西岸と本州北部の太平洋側だけで、特に国内ではつい10年程前までは採集記録が数件あるだけの、まさに幻の魚でした。
この小さな魚に出会うため、全国から年間1,000人以上のダイバーが南三陸町を訪れます。それはここが一般のダイバーがウチバシカジカを見ることができ、日本屈指のダイビングスポットだからです。
南三陸商工会では、このウチ坊を人々のつながりの象徴として、またこの不器用そうな魚ですら生きていける懐の深い自然のシンボルとして、南三陸町の観光&物産の新しいキャラクターに決定しました。

街角まごころ掲示板

"汐風だより" 参加者募集!

D C南三陸町推進協議会（以下「D C協議会」。）では、今年10月から12月に開催される本キャンペーンに向け、現在「地域ぐるみでのおもてなし」を合言葉に、さまざまな取り組みを行っています。

南三陸町に訪れるお客さまが立ち寄られるのは、何も観光施設に限ったことではありません。求められる魅力は、ここに住む人の文化・食など、日常の暮らしそのもののなのです。

そこで、D C協議会では南三陸町のいたるところに「汐風だより」と称した観光案内掲示板を設置し、町内の皆さまへ、そして町を訪れる多くのお客さまへ南三陸のホットな情報をお届けします。

「私のお店に置いてみたい!」、「うちの会社もやってみようよ!」、「この空スペースを利用しては?」など、興味のある方は、ぜひD C協議会までお問合せください。

- ◇設置箇所選定期間 3月1日(土)～3月15日(土)
- ◇設置開始時期 4月1日(火)以降
- ◇設置掲示板サイズ たて60センチ×よこ60センチ
- ◇その他 参加者は個人、企業を問いません。D C協議会が発行する「汐風だより」の張替えを随時行っていただきます。

「南三陸時間旅行サポートセンター」って知ってまあか???

D C協議会では、南三陸町の総合観光案内窓口として現在、観光協会を軸にしたスタッフで「南三陸時間旅行サポートセンター」を開設しています。町外から訪れるお客様に町の魅力を伝える"ガイド業務"や南三陸を楽しむ"ツアープラン提案業務"、民宿など宿泊施設の"案内業務"、そして町内の各業種間でのワークショップなどを開催しています。

皆さんの周りに南三陸町への旅行や日帰り観光など、検討中の方などがいらっしゃいましたら、ぜひ「南三陸時間旅行サポートセンター」をご利用ください。
南三陸町旅行サポートセンター ☎47-2550(観光協会内)

おもてなしの心もひとつに

県D C推進協議会事務局では、D Cのイメージキャラクターである「おすび丸」をモチーフに、さまざまなキャラクターグッズを販売しています。

「おもてなしの心」の統一シンボルとして、あなたの職場や仲間内でも広めてみませんか?

なんと! 最近おすび丸が秘かに、縁結びのご利益があるとの新伝説が広まっています。おすび丸の名称と可愛らしさから生まれたもようです。

おすび丸グッズを通じて、多くの方に幸せが訪れるといいですね!



ピンバッチ (200円)
缶バッチ (100円)

好評発売中!!

庄内の風 ⑬

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー



ワカメ収穫体験に参加した皆さん

2月10日(日)、伊里前漁港で住民交流事業の一環として、庄内町の皆さんによる「ワカメ収穫体験」が行われました。
今回は、この事業に参加した庄内町の相馬進さんから体験レポートをいただきましたので紹介します。

ワカメ刈り取りを体験して



自分たちで種はさみしたワカメを刈り取る

久しぶりに快晴に恵まれた庄内町を後に、登米市の明治村、南三陸町の神割崎の視察を経て、目的地の南三陸町に到着。出発から8時間程の道のりでした。
懐かしい風景に再会した私達は、穏やかな波の中で刈り取りを待つワカメの姿を思い浮かべながら、壮大な海岸美に釘付けでした。
一夜明け、刈り取り体験の日は、あいにくのみぞれ模様でしたが、立派に成長したワカメを、慣れない手付きで寒さも忘れて刈り取りしました。
高品位で均一なワカメを育てるための徹底した管理のおかげで、貴重な収穫を体験させていただき、漁協の皆さんには感謝で一杯です。
交流会でもワカメの話は尽きることなく、ブランド品を生産する事への情熱、また、スケールの大きさに圧倒されました。
今度はぜひ、家族で南三陸を満喫したいと思います。

夢大使 リレー通信 ⑬



夢大使 高橋 登米治 さん
(神奈川県厚木市)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。
今回は、在京志津川会会長の高橋登米治さんです。

夢大使を委嘱されてから、2回目の新年を迎え、そして2巡目のリレー通信寄稿となりました。
今回は夢大使として、まず、足元から宣伝をしてきた私の地域環境について触れてみたいと思います。私の住んでいるまちは、神奈川県中央に位置し、人口22万余を有する県央中核都市に指定され、東は東京町田市、西は小田原市、南は湘南海岸(藤沢・茅ヶ崎・平塚市)、そして、北は相模原市に囲まれた内陸に属する厚木市と言うところです。
約50年位前までは、東京八王子と並んで養蚕業が盛んで、「繭」生産出荷当時の市の財政が、相当豊かであったことは論を待たないようです。
現在は東名高速道路の開通と同時に、厚木インターが開

設され、大手企業が支社・支店・営業所・工場を展開するなど、養蚕業時代の財政事情とは180度転換の財政(事業税)収入を維持しているようです。いまでも、その養蚕業の名残を惜しむかのように、春蚕飼育を続けている農家の光景がみられます。かつて南三陸町の各地域で、養蚕業を営み、生糸生産に生涯を注いだ人たちの思い描いておられます。さて、昨年4月より、厚木市老人クラブ連合会の常務理事として、市内各団体組織等へのボランティア支援の手を差し伸べながら、宣伝活動も行ってききました。
「南三陸町の未来」をアピールするとき、メインとなるのはやはり志津川湾を基調とする、銀ザケ・カキ・ホヤ、そして若布等の養殖漁業と、天

然物の魚介類(名産の真だこ・あわび・近海魚)と海藻類を掲げています。同時に、その魚介類を手際よく料理する「こつ」も、自分の知る範囲を口頭で伝えています。
当地は、昔から内陸に位置しており、食生活も、副食として穀物・野菜・肉類がウエイトを占め、魚介類の料理には馴染みが薄かったのは否めない事実であったようです。しかし、食文化については、高度な知識を持ち合わせており、都会の今風な外食産業に位置するレストランは、既存の食堂観念にない魚介類のメニューは豊富でありますから、その方面からの魚料理献立に対する興味は旺盛であるように見受けられます。
したがって、今後の活動は、魚介類料理の実体験方法も加味して、観光ツアー形式の宣伝が「功を奏する」かな。と、新たな想いを巡らせておられます。「言うは易く、行うは難し」です。中身の濃い成果が生まれるよう努力してきただけですが、昨年10月から12月にかけて、佐藤町長の陣頭指揮で推進した事業であります、(仙台・宮城ブレD C)のモニターツアーに参加出来なかったことは残念でありません。
以上、私の理想論も含めて、残りの夢大使の任期を全うすべく、雑感を述べてペンをおきます。

夢大使2年目の雑感